

立命館大学 国際平和ミュージアムだより

KYOTO MUSEUM FOR WORLD PEACE, RITSUMEIKAN UNIVERSITY

Vol.33-1 (通巻96号) 2025.7.31発行



Contents

01	理念・2024年度 総括
02	国際平和ミュージアムリニューアル記念 立命館創始155周年・学園創立125周年記念企画
03～06	国際平和ミュージアムイベント開催報告
07～09	平和教育研究センター活動報告
10・11	教育普及活動報告
12	博物館基礎データ
13	2024年度活動記録
14	2024年度入館者状況
15	遊心雑記

理念

人類は20世紀において、2度におよぶ世界大戦を経験し、幾千万もの命を失いました。しかし、地域紛争は今なお絶えることなく、多くの人びとが生存の危機にさらされています。また、飢えや貧困、人権抑圧や環境破壊など人類が共同して解決すべき問題も、多様な形で浮上ってきています。わたしたちは、紛争の原因を取りのぞき、人間の可能性が豊かに花開く平和な社会の実現に向けて努力することが求められています。

立命館大学国際平和ミュージアムは、平和創造の面において大学が果たすべき社会的責任を自覚し、平和創造の主体者をはぐくむために設立されました。

2024年度 総括

2024年度は、世界の平和と安定を揺るがす重大な出来事が相次いだ年となりました。世界の人々が関心を寄せ、心を痛めた事案のひとつはやはりウクライナ戦争の長期化と中東情勢の悪化であったことと思います。ロシアによるウクライナ侵攻は3年目に入り、停戦の兆しが見えないまま戦闘が続きました。国際世論が様々に分かれつつある中で、和平へ向けた糸口が模索され続けました。紛争による人道危機、経済的影響が欧州始め、世界各地に波及しました。中東ではイスラエルとハマスの紛争が激化し、ガザ地区を中心に甚大な被害が発生しました。イスラエルによる軍事作戦により多数の市民が犠牲となり、収束の兆しがなかなか見えない状況が続きました。

安定を揺るがす事案は直接の紛争に留まりません。24年度は世界各地で大規模な自然災害が多数発生しました。25年1月、アメリカカリフォルニア州では大規模な山林火災が発生し、約5万エーカー（東京ドーム4,300個分）の森林と1万6千棟の建屋が消失しました。世界各地で洪水や地滑りも多発しました（6月：ナイジェリア・セネガル、9月：ネパール、10月：スペイン等）。これらは急速な気候変動に起因するものとされています。グテーレス国連事務総長は7月27日の記者会見で「地球温暖化の時代は終わり、地球沸騰の時代が到来した」と表現をしました。

平和を脅かす様々な事案が続く中、立命館大学国際平和ミュージアムはその一つひとつの課題に向き合い、立命館学園内外の関係者のみなさんとの「対話」の機会を積極的に提供しながら、課題理解、各人相互理解の促進に務めました。ミュージアム学生スタッフのみならず自ら企画したワークショップや展示企画の数々は、次代を担う若者達の真摯な志が明確に発信されていて、大いに学ぶことができました。こうした取組の集大成の一つとして実施したのが11月に国連事務次長・軍縮担当上級代表の中満泉氏を衣笠キャンパスへお招きしての名誉博士号贈呈、講演会、学生対話でした。日本原水爆被害者団体協議会（日本被団協）が24年度のノーベル平和賞を受賞された時期の開催となり、とても意義深い取組となりました。

国際平和ミュージアムは25年度も引き続き、平和創造のための「対話」の場を提供して参ります。

国際平和ミュージアムリニューアル記念 立命館創始155周年・学園創立125周年記念企画

中満泉国連事務次長・軍縮担当上級代表をお招きしての講演会・学生対話を開催

日 時：2024年11月1日(金) 14:00～16:10

会 場：衣笠キャンパス 以学館1階1号ホール

立命館大学国際平和ミュージアムリニューアル記念 立命館創始155周年・学園創立125周年記念企画 として、中満泉国連事務次長・軍縮担当上級代表をお迎えし、講演会と学生対話を開催しました。

講演会に先立ち、本学の教学理念である「平和と民主主義」を体現し、国際社会において平和構築に多大なるご貢献をされてきた中満様の業績を称え、仲谷総長から同様に立命館大学名誉博士号を贈呈いたしました。その後、「平和で公正な未来へ：私たちにできること」というテーマのもと、約60分間ご講演をいただきました。本年のノーベル平和賞を授賞された被団協（日本原水爆被害者団体協議会）の話題や、9月に開催された国連未来サミットの内容も交えて、若い世代が国際社会や平和創造に積極的に関わることの意義をお話しくださりました。ガザやウクライナの問題など、あらゆる困難が立ちはだかる世界ではあるが、「あきらめない」という姿勢で取り組み続けることが国連のつとめであり、その取り組みを続けるためには未来世代の若者たちの力が必要不可欠であるという思いを、学生・生徒を始めとする400名余りの参加者へ力強くお伝えくださいました。

講演会に続き、選抜学生・生徒との「対話イベント」を実施しました。まず初めに、附属校4校から各校1名の代表生徒が質問いたしました。国際社会の現況や軍縮の具体的な取組についてなど、国連の代表者としての中満様に対しての質問を各人の視点から差し上げました。続いて大学生、大学院生から4名が質問をいたしました。中満様自身のこれまでのキャリアや、平和構築についての想いをうかがう質問を様々な視点から差し上げました。中満様からの回答や、対話進行を務められた君島館長からの補足を受けて会場からさらに質問が出るなど、活発な意見交換が時間いっぱい続きました。国際機関の職員として様々な場面で活躍してこられた中満様の広い見識や経験に基づく力強くそして心温まるお話の数々に参加者が熱心に聞き入る様子が印象的な催しとなりました。



平和対話での学生から中満様への質疑



中満様ご講演



選抜学生・生徒との平和対話



平和対話後の記念撮影



仲谷総長から中満様への名誉博士号贈呈



名誉博士号贈呈への中満様からの謝辞

国際平和ミュージアムイベント開催報告

2024年度、人々の平穏な生活を脅かす様々な事象が起こりました。心が痛む光景を目の当たりにし、未来の平和創造へ向けた取組の必要性を強く感じながら、国際平和ミュージアムは様々な取組を試みました。

常設展示

常設展示をより理解するためのミュージアム講座、講話を実施しました。

テーマ展示4ライブテーブル上の「武器アート」作品群につき、2023年度から一部展示替えをおこないました。愛媛県庁およびNPO法人四国グローバルネットワークより借用し、2025年3月末まで展示しました。

問いかけ広場の壁面で実施している、「問い」に対して来館者と相互交流の場として付箋を貼り付ける演出につき、改めて壁面の整備を行っています。合わせてオリジナル付箋をデザインし、能動的な対話を促す展示装置として整備をすすめました。



国際法合同セミナーポスター発表の様子



テーマ展示4 ライブテーブル（武器アート）



問いかけひろば

春季特別展

押原譲写真展 ガザ

会 期：2024年5月17日(金)～7月15日(月)・祝

会場：国際平和ミュージアム中野記念ホール
企画展示室

主 催：立命館大学国際平和ミュージアム

共催：立命館大学中東・イスラーム研究センター

後 援：京都市、京都府教育委員会 京都市教育委員会、
京都市内博物館施設連絡協議会

入場者数：4,423名

本展覧会では、報道写真家、押原譲が2003～2004年まで滞在したパレスチナ、ガザ地区での取材記録を展示しました。紛争、戦乱という一側面だけで語ることのできない懸命に生きる市井の人々の日常を紹介した写真展です。生き生きとした人間の営みを見つめることで、犠牲になっているのは、私たちと同じ、将来を夢見て、日々の努力を重ね、大事な誰かの誇りになりたいと願い生きる人びとだということに、改めて目を向けたいと企画したものです。

写真に加えて、さまざまな個人と「中東」との出会いを紹介するコーナーも設置しました。会場の最後には来館者がメッセージを残す場所も設けて、来館者同士のやりとりも交わされていました。多様な立場からの言葉が紡がれた展覧会となりました。

押原讓写真展

OSHIHARA YUZURU Photo Exhibition



ガ
غازة
ḡāza
加沙
गाजा
가사
Gaza
ဂဇာ
गज़ा
ဂါဇာ
กาซา
yáẓa
dài qaza

2024
5/17(金)-7/15(月・祝)

開館時間：9:30～16:30(入場は16:00まで) 休館日：日曜日、祝日の翌日
 会場：金沢大学国際平和ミュージアム中野記念ホール、企画展示室
 主催：金沢大学国際平和ミュージアム
 共催：金沢大学中野記念ミュージアム研究センター(Center for Middle Eastern and Islamic Studies Ritusenken University)
 後援：金沢市、北沢市、金沢教育委員会、金沢市教育委員会、金沢市立博物館金沢交通観光協会
 写真協力：協力：有限会社フォグワフーズラボラトリー
 入場料：大人4,000円(3,500円)、中学生：高校生以下(2,500円)、小学生2,000円(1,500円)
 注：1日以内は6名以上の団体料金、後者は表示見ず、団体予約は随時(5/18)は無料公開
 問い合わせ先：金沢大学国際平和ミュージアム 076-261-2211

立命館大学国際平和ミュージアム
Ritsumeikan University International Museum of Peace



中野記念ホール



関連企画 ギャラリートーク (KYMC 発表)



関連企画 映画上映の様子

メッセージの一例

「平和を願う」「平和第一」「戦争反対」
「どの国の誰が悪いということではなく、傷ついている人に目を向けよう」「(遠い国に) 自分たちと変わらない生活があることを知った」
「では、何を？」「趣旨は理解するがこれでは紛争を解決するには十分ではない」

「もう (パレスチナをめぐる状況は) 元のようににはもどれないと思う」(イスラエル出身旅行者)
「自分の国ではこういう展覧会はできない」(ドイツから来たパレスチナ出身者)

関連企画

「私と中東」コーナー ギャラリートーク

①2024年5月17日📅 10:00～11:00／14:00～15:00

参加者：13名 ゲスト：押原 譲

展覧会写真家による、ギャラリートーク

②2024年6月15日📅 14:00～15:00

参加者：33名

ゲスト：Kansai Youth Movement for Change (KYMC)

ファシリテーター：館長 君島 東彦

立命館大学の有志学生団体による、パレスチナ問題をめぐる活動の報告と、若い世代がどう問題にとりくむかについて議論が展開されました。

映画上映

『被占領下パレスチナを訪ねて アル＝アクサ・インティファダはなぜ起きたのか』

2024年7月6日📅 10:00～11:00

参加者：8名

役重 善洋／撮影・編集 パレスチナの平和を考える会制作 (2004)

ゲストトーク：役重 善洋 氏 (同志社大学人文科学研究所嘱託研究員)

映画上映と合わせて、撮影者役重氏による、今のイスラエルの状況、右派、左派の活動などもふまえた解説ならびに、参加者との意見交換を行いました。

後援共催協力事業

1) 展示協力

・「生誕100年 儀間比呂志木版画展」

主 催：ギャラリー美遊館

会 期：2024年7月3日📅～7月11日📅

会 場：ギャラリー美遊館

2) 共催

・2024年度「第二次世界大戦の長期的影響に関する学際的シンポジウム」
第二回シンポジウム「平和ミュージアムの挑戦—記憶と対話を通じた戦争によるトラウマの癒し」

日 時：2024年12月21日📅

共 催：立命館大学大学院人間科学研究科、国際平和ミュージアム、
日本における第二次世界大戦の長期的影響に関する学際的
シンポジウム

後 援：立命館大学人間科学研究所

3) 後援

・変革的正義研究会 War Crimes Archiving

日 時：2024年9月～2025年3月31日📅

プロジェクト研究会

日 時：2025年2月20日📅、21日📅

4) その他事業協力

・立命館大学人間科学研究所インタビュー調査

日 時：2024年11月～2025年3月

・立命館アジア太平洋大学、立命館大学 (APU-RU) 国際法共同セミナー
ポスター発表展

日 時：2024年11月8日📅～12月14日📅

主 催：立命館大学 (RU) の「国際法・正義」ゼミ (担当講師：越智 智萌)、立命館アジア太平洋大学 (APU) の国際法ゼミ (担当講師：平野実晴)

会 場：国際平和ミュージアム常設展示場

関連ワークショップ

PEACE MUSEUM INTERNATIONAL LAW

「国際法教育における平和ミュージアムの役割」

日 時：2024年11月27日📅

参 加：12名

協 力：国際法教育Co-Lab

・立命館中学校・高等学校学生見学ワークショップ

日 時：2024年12月12日📅

秋季特別展

阿波根昌鴻——写真と抵抗、そして島の人々

会 期：2024年11月5日(火)～12月21日(土)
会 場：国際平和ミュージアム・中野記念ホール
主 催：立命館大学国際平和ミュージアム
共 催：一般財団法人わびあいの里、
島の宝・阿波根昌鴻写真展実行委員会
企 画：小原 真史
企画協力：阿波根昌鴻資料調査会、東京工芸大学、小原佐和子、
原爆の図丸木美術館
後 援：沖縄県、伊江村、伊江村教育委員会、京都府、京都市、
京都府教育委員会、京都市教育委員会、
京都市内博物館施設連絡協議会、NHK 沖縄放送局、
KBS 京都
入 館 者：5,640人

秋季特別展では、戦後沖縄・伊江島の土地闘争を記録した写真展を開催しました。本展は、「沖縄のガンジー」と呼ばれる阿波根昌鴻が1950年代半ばから1960年代半ばにかけて撮影した写真約350点を展示し、現代の沖縄をはじめとして、戦争や植民地主義、開発などによって土地収奪が続けられている現代世界の暴力とその抵抗のあり方を問いかける展示でした。



阿波根昌鴻
写真と抵抗、そして島の人々
Ahagon Shoko: Photography, Resistance, and Island People

2024.11.5 Tue - 12.21 Sat

立命館大学国際平和ミュージアム
Kyoto Museum for World Peace, Shinanaka University

主催：立命館大学国際平和ミュージアム
共催：一般財団法人「わびあいの里」、島の宝・阿波根昌鴻写真展実行委員会
企画：小原真史
協力：阿波根昌鴻資料調査会、東京工芸大学、小原佐和子、原爆の図丸木美術館
後援：沖縄県、伊江村、伊江村教育委員会、NHK 沖縄放送局、京都府、京都市、
京都市内博物館施設連絡協議会、立命館大学国際平和ミュージアム、KBS 京都



秋季展覧会会場



来館者アンケート結果（有効回答数162人）

- ①とてもよかった101人（63%）、②よかった52人（32%）、
③ふつう7人（4%）、④よくなかった0人（0%）、
⑤とてもよくなかった2人（1%）

具体的な感想「当時の沖縄の人びとが戦後どのような状況下になり、
どのように抵抗活動が行われていたのかが理解しやすかった」（同志

社大学・大学生）、「苦しくなるようなものがあったが、それを乗り越えてきた人々の強さも知れてよかった」（京都府・高校生）、「私たちが関心をもって沖縄の現状に疑問を投げかけ、声を上げる必要があるのではないと思う」（立命館大学・大学生）、「今を考える写真展だと思った」（京都府・60代）

関連企画

関連企画にはのべ150人を超える参加がありました。写真展の内容にとどまらず沖縄やガザの現状に関して、市民と研究者との間の対話の場となりました。

①小原真史によるギャラリートーク

日 時：2024年11月22日(金)

②トーク企画「阿波根写真と伊江島の人々」

日 時：2024年11月23日(土)・(日)

講 師：比嘉 豊光（写真家）・高科 真紀（国立民族学博物館助教）・

小原 真史（東京工芸大学准教授）

③トーク企画「伊江島、奪われた土地をめぐる経験から考える」

日 時：2024年11月30日(土)

講 師：新城 郁夫（琉球大学教授）・大野 光明（滋賀県立大学准教授）

④トーク&上映会「〈非暴力〉という生き方

——阿波根昌鴻から何を学ぶか」

（教職員組合共催、「不戦の集い」関連企画）

日 時：2024年12月7日(土)

講 師：大畑 豊（わびあいの里）・君島 東彦（当館館長）

ギャラリー企画展

2024年度総括

第2期リニューアル後の初めての試みとなるギャラリー企画展を実施しました。本事業は、リニューアル前のミニ企画展を引き継いだものであり、「企画展示室」（国際平和ミュージアム1階）を会場とする本学構成員・市民主催の展示企画です。一般公募（2024年3月）を行い、9件の応募がありました。

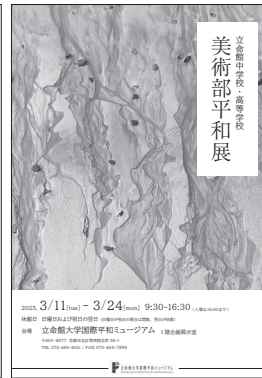
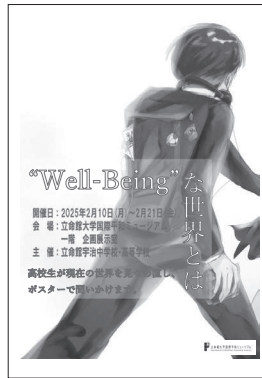
本事業を通じて、学生や市民・研究者の平和発信の場を提供することができました。とりわけ本学の学生（みらいゼミ「記憶を紡ぐ」）や研究者（衣笠総合研究機構研究員）、研究プロジェクト（人間科学研究科・震災プロジェクト）と国際平和ミュージアムが提携しながら、博物館ならではの「展示」というアプローチから成果発表の機会を支援することができました。また、ギャラリー企画展を通じて、当館所蔵資料に対する再評価が生まれました。京友会関係資料や坂本正直作品をもちいたギャラリー企画展は、それぞれ「ヒバクシャを知るきっかけに——京都の被爆者団体の歩みを展示で紹介」『朝日新聞』（11月19日）や「戦争の加害描いた作品展」『神戸新聞』（12月19日）などマス・メディアなどからも注目されました。

2024年度に実施したギャラリー企画展は、以下のとおりです。

①「昭和初期の和服柄に宿る戦争」（7月22日㊥～8月22日㊦）

主催：大高 幸（放送大学客員准教授）

②「水田喜八の十の夢」（9月9日㊥～9月22日㊦）



2024年度 ミュージアム講座・平和講話等希望団体 一覧

見学日	団体名	人数	ミュージアム講座 平和講話
5月21日（火）	西宮市立苦楽園中学校	171	平和講話
5月29日（水）	神戸市立押部谷中学校	101	平和講話
5月29日（水）	志津・志津南合同民生委員児童委員協議会	32	ミュージアム講座
6月5日（水）	京都市立西大路小学校	21	平和講話
6月12日（水）	北海道平和婦人会	20	ミュージアム講座
6月15日（土）	SMJK	70	ミュージアム講座
7月20日（土）	三重県立相可高等学校	80	ミュージアム講座
9月11日（水）	藤尾学区「人権・生涯」学習推進協議会	40	ミュージアム講座
9月18日（水）	ノートルダム学院小学校	115	ミュージアム講座
9月25日（水）	唐崎学区「人権・生涯」学習推進協議会	30	平和講話
9月30日（月）	吹上地区人権委員会	40	平和講話
10月2日（水）	映像基礎演習	200	（出張講座）
10月4日（金）	近畿高等看護専門学校	40	ミュージアム講座
10月16日（水）	京都生協 西京エリア会	11	平和講話

- 主催：Wアソシエイツ／後援：桜ノ宮 活版倉庫
- ③「非戦の人——ジャネット・ランキン」（9月30日㊥～10月12日㊦）
主催：ヒロシマ・ナガサキ・ビキニ・フクシマ伝言館
- ④「記憶を紡ぐ私たち」（10月21日㊥～11月2日㊦）
主催：みらいゼミ「記憶を紡ぐ」
- ⑤「古都の被爆者——原爆投下候補地京都における京友会の発足から現在まで」（11月11日㊥～11月23日㊦・㊧）
主催：鈴木 裕貴（立命館大学衣笠総合研究機構研究員）
- ⑥「『そら うみ はなが 伝えること』（11月18日㊥～11月29日㊦）
主催：上田 しずか
- ⑦「描かれた加害——坂本正直が向き合った戦場体験——」（12月5日㊦～12月21日㊦）
主催：所 薫子（坂本正直記念館）・中村 江里（上智大学）
- ⑧「漫画で綴る～いろいろ家族のショートストーリー『木陰の物語』～」（1月13日㊥・㊦～1月30日㊦）
主催：立命館大学大学院人間科学研究科 震災プロジェクト
東日本・家族応援プロジェクト
- ⑨「物語と土地のカー東日本・家族応援プロジェクトとフクシマを巡る旅——」（1月13日㊥・㊦～1月30日㊦）
主催：団 士郎（立命館大学大学院人間科学研究科 震災プロジェクト、東日本・家族応援プロジェクトメンバー教員）
- ⑩「Well-Beingな世界とは」（2月10日㊥～2月21日㊦）
主催：立命館宇治中学校・高等学校
- ⑪「美術部平和展——立命館中学校・高等学校——」（3月11日㊦～3月24日㊦）
主催：立命館中学校・高等学校

見学日	団体名	人数	ミュージアム講座 平和講話
10月16日（水）	立命館慶祥中学校	189	平和講話
10月25日（金）	滋賀民主医療機関連合会	14	ミュージアム講座
10月29日（火）	尼崎医療生活協同組合 診療所主任会	6	ミュージアム講座
11月16日（土）	京都芸術大学（博物館資料保存論）	26	ミュージアム講座
12月14日（土）	熊本市立力合中学校	229	ミュージアム講座
12月20日（金）	京都府職員研修・研究センター	60	ミュージアム講座
12月26日（木）	映像学部セミナー	20	ミュージアム講座
1月21日（火）	大阪同和・人権問題企業連絡会 啓発研究会 Fチーム	7	ミュージアム講座
1月21日（火）	小林市立須木中学校	11	平和講話（ディスカッション形式）
1月24日（金）	亀岡市教育委員会（女性リーダー研修）	20	平和講話
2月21日（金）	War Crimes Archiving	27	ミュージアム講座

平和教育研究センター活動報告

平和教育研究センターでは、2024年度も様々な角度から「平和」についての考察を深める取組を展開しました。テーマは、直接の紛争に留まらず、人権、スポーツと平和等、多岐にわたりました。以下が、2024年度の実績となります。

1 センター全体企画

立命館土曜講座

「平和学って何？——ガルトゥング、リアドンから学ぶ」

①「ガルトゥング平和学の現代的意義について——現代において戦争は暴力か」

発表者：藤田 明史 氏（立命館大学国際関係学部・非常勤講師）

日 時：2024年8月3日 10:00～11:30

場 所：末川記念会館＋ZOOMウェビナー

②「ベティ・リアドン——フェミニスト平和教育研究のパイオニア」

発表者：秋林 こずえ 氏（同志社大学大学院 グローバル・スタディーズ研究科教授）

日 時：2024年8月24日 10:00～11:30

場 所：末川記念会館＋ZOOMウェビナー

2 研究プロジェクト企画

研究プロジェクト

2024年度の平和教育研究センターでは、全14件の様々な研究プロジェクトが展開されました。

①「平和」をテーマとするマンガ・オンライン展覧会プロジェクト

代 表：田中 聡（立命館大学文学部教授）

②パンデミック下のオンライン戦争展の構築

代 表：安斎 育郎（当館名誉館長）

③メディア資料研究会

代 表：勝村 誠（当館副館長）

④博物館の資料研究（戦後社会セクション）

代 表：勝村 誠（当館副館長）

⑤自衛隊基地の地域社会史

代 表：番匠 健一（平和教育センターリサーチャー）

⑥京都国際比較人権セミナー

代 表：出口 雅久（立命館大学法学部教授）

⑦平和博物館の戦争体験継承

代 表：兼清 順子（平和教育センター運営委員）

⑧附属校平和教育研究会

代 表：六車 陽一（立命館大学一貫教育部）

⑨被爆の実相の継承と平和のための博物館の国内・国際ネットワークの構築・強化

代 表：山根 和代（立命館大学衣笠総合研究機構客員研究員）

⑩スポーツと平和創造

代 表：市井 吉興（立命館大学産業社会学部教授）

⑪植民地資料研究会

代 表：庵道 由香（立命館大学文学部教授）

⑫戦後日本の平和教育に関する比較史アーカイブズ構築プロジェクト

代 表：鈴木 裕貴（立命館大学衣笠総合研究機構客員研究員）

⑬戦時・戦後における文学者を取り巻く時代意識の通時的研究

代 表：佐々木 梓（立命館大学文学研究科）

⑭平和教育複合プログラムの試み

代 表：野島 大輔（立命館大学衣笠総合研究機構客員研究員）

研究プロジェクト企画

①国際セミナー

「The Digitization of Civil Procedure in Singapore」

発表者：Remy Choo 氏（弁護士・RCL Chambers Law Corporation）

日 時：2024年4月8日 14:40～16:10

場 所：平井嘉一郎記念図書館

②国際ワークショップ

「European Civil Procedural Law and Human Rights Guarantees」

発表者：Fernando Gascón Inchausti 氏（マドリッド・コンプルテンセ大学）

日 時：2024年4月20日🕒 9:30～16:45

場 所：創思館カンファレンスルーム

③特別講演会

「ドイツと日本：21世紀の課題を克服するための良きパートナー」

講演者：Clemens von Goetze 氏（駐ドイツ連邦共和国大使）

日 時：2024年6月11日🕒 13:00～14:30

場 所：平井嘉一郎記念図書館

④第31回メディア資料研究会

「Reconciling the Past, Building a Peaceful Future: The Indonesian Memory of the Japanese Occupation（過去と和解する、平和な未来を築く——日本占領に対するインドネシアの記憶）」

発表者：Mahoni Anjani Putri 氏（立命館大学国際関係学部4年生・国際平和ミュージアム学生スタッフ）

日 時：2024年9月19日🕒 16:00～17:30

場 所：国際平和ミュージアム2階・ピースコモンズ



⑤オンライン展

「第5回マンガ・パンデミックWEB展2024」

日 時：2024年10月1日🕒～12月31日🕒

場 所：オンライン開催 (<https://www.mangapandemic.jp/gallery/>)

⑥ワークショップ

「反五輪運動とは何か？」

発表者：市井 吉興 氏（立命館大学産業社会学部教授）

日 時：2024年11月8日🕒 15:00～17:00

場 所：国際平和ミュージアム2階・セミナー室1

⑦国際セミナー

「European Civil Procedural Law and Human Rights Guarantees」

発表者：H. Özden Özkaya-Ferendeci 氏（トルコ・ドイツ大学副学長）

ほか

日 時：2024年12月2日🕒 14:40～16:10

場 所：平井嘉一郎記念図書館

⑧ワークショップ

「競技組織は平和や戦争にどう向きあっているか？」

発表者：松島 剛史 氏（立命館大学産業社会学部准教授）

日 時：2024年12月6日🕒 13:00～14:30

場 所：国際平和ミュージアム2階・セミナー室1

⑨ワークショップ

「パラリンピックと共生社会：傷痍軍人のリハビリから 多様性の祭典へ」

発表者：金山 千広 氏（立命館大学産業社会学部教授）

日 時：2025年1月10日🕒 15:00～16:30

場 所：国際平和ミュージアム2階・セミナー室1

⑩ワークショップ

「平和共創ワークショップ～いま世代を超えて、ともに提案を創り上げよう！～」

日 時：2025年1月13日🕒・🕒 13:00～16:30

場 所：国際平和ミュージアム2階・セミナー室1

⑪講演企画

「戦後芸術と反万博」

発表者：細谷 修平 氏（和光大学客員研究員）

日 時：2025年2月11日🕒・🕒 16:00～17:30

場 所：国際平和ミュージアム2階・セミナー室1



⑫講演企画

「『聖断』の語りはどう作られたか——1950年代を中心に」

発表者：五味渕 典嗣 氏（早稲田大学教育・総合科学学術院教授）

日 時：2025年2月21日🕒 15:30～17:00

場 所：国際平和ミュージアム2階・セミナー室1

⑬講演企画

「自然の命を解き放つ——インゴルド、スコット、グレーバーの人類学の思想と実践」

発表者：比嘉 理麻氏（沖縄国際大学総合文化学部准教授）
 コメント：今津 有梨氏（延世大学大学院文化人類学部修了）
 日時：2025年2月28日（金）16:00～18:00
 場所：国際平和ミュージアム2階・セミナー室1

⑭第32回 メディア資料研究会

「社会運動としてのURC レコードと関西フォーク」

発表者：佐々木 米市氏（京都大学農学部林学科大学院博士課程中退）

日時：2025年3月6日（木）16:00～18:00

場所：国際平和ミュージアム2階・セミナー室1



⑮メディア資料研究会・植民地資料研究会共催企画

「広瀬貞三資料を読む」

発表者：庵道 由香氏（立命館大学文学部・文学研究科教授）

イ・スンヒョン氏（立命館大学文学研究科博士課程後期2回生）

小川 拓郎氏（立命館大学文学研究科博士課程前期2回生）

嘉名 侑希氏（立命館大学文学研究科博士課程前期1回生）

日時：2025年3月24日（月）14:00～16:00

場所：国際平和ミュージアム2階・セミナー室1



3. センター活動の発信

紀要『立命館平和研究』26号

巻頭特集

「ガルトゥング、リアドンをいかに継承・発展させるか——平和研究の先達を回想する」(君島東彦、藤田明史、秋林こずえ、安斎育郎ほか)

ほか

論文 3本

調査・研究・実践報告・書評 5本

2025年3月26日発行



教育普及活動報告

次代を担う若者を広くミュージアムへお迎えし、平和創造活動を体験頂きました。また、ミュージアムが持つ様々な平和学習教材の学外への貸し出しに務めさせて頂きました。

教材キット・パネル、展示パネル、DVDの貸し出し

展示パネルの貸出は、6件6団体でした。そのうち、5件が8月で、1件が9月でした。

教材キットの貸出は、2件1団体で、12月でした。

DVDの貸出は、平和講話DVD⑩点、計5件（団体・利用者）でした。

DVDを利用した貸出先は、平和講話で小学校1：②、中学校1：②、その他3：③①②でした（丸付き数字はDVD利用数）。

DVDのタイトルで、「二度の死線を越えて 一母の大阪空襲・広島原爆体験」および「五八年後の原爆 一若者たちに平和へのバトンを託す」が小学校と中学校で、それぞれで利用でした。

※貸出手続き等は、当館のWEBを参照ください。

各種展示会で活用いただける「展示パネル」の貸出を行っています。

展示パネル名 と 利用状況	貸出件数
原爆と人間展（2セットあり）	2
沖縄戦と基地	1
井戸も掘る医者：ペシャワール会の医療活動・緑の大地計画	2
ヒロシマ・ナガサキ原爆と人間（2セットあり）	1
合 計	6

学校の授業で活用いただける「教材キット・パネル」の貸出を行っています。

教材キット・パネル名 と 利用状況	小学校	中学校	高校	その他	合 計
一五年戦争（慰問袋）キット	0	2	0	0	2

「DVDによる教育普及ツール」の貸出を行っています。

1：利用者実数（団体・その他個人数）

DVD名 と 利用状況	小学校	中学校	高校	その他	合 計
デジタル平和講話	1	1	0	3	5

【デジタル平和講話】当館「平和友の会」のみなさんによるデジタル教材

平和講話 DVDタイトル と 利用状況	小学校	中学校	高校	その他	合 計
学校は兵営のようになった 一戦時下の立命館第一中学校の軍事教練	0	0	0	1	1
敗戦時の東京農業大学満州報国農場 一2度国に棄てられた農生徒たちの記録	0	0	0	1	1
ぞうさんたちの死 戦争と岡崎動物園	0	0	0	1	1

平和講話 DVDタイトル と 利用状況	小学校	中学校	高校	その他	合 計
二度の死線を越えて 一母の大阪空襲・広島原爆体験	1	1	0	1	3
五八年後の原爆 一若者たちに平和へのバトンを託す	1	1	0	1	3
核兵器のない世界と未来をめざしましょう！【館内利用限定】	0	0	0	1	1
平和講話 合 計	2	2	0	6	10

職場体験学習

2024年6月4日（火）～6月7日（金）、11月6日（水）～11月8日（金）、2025年2月26日（水）～2月28日（金）の日程で、京都市立七条中学校、立命館中学校・高等学校、京都教育大学附属京都小中学校からそれぞれ2～3名の生徒を受け入れました。

期間中は、メディア資料室の書籍の紹介POP制作や展示室でのガイド、資料整理、大学生とのディスカッションを体験してもらいました。日程の前半では展示室の見学や資料の調査などインプットをメインに行い、後半では学んだことを言語化し発信するアウトプットの機会を設けました。

ただ受動的に調査するのではなく、来館者に伝える、或いは質問を引き出すために相手の目線に立って対応するという配慮や、材質から時代背景に至るまで真摯に資料と対峙する姿勢について学んでもらいました。どの学生も初めてとは思えないほど積極的に来館者とコミュニケーションを取り、一生懸命に伝えようとする姿が印象的でした。後日担任の先生から、見違えるほど積極性が身に付き、自分の考えをしっかりと発言するようになったとの報告を受けました。



京都市立七条中学校
ガイドのみなさんへの学習報告の様子



展示場ガイド



制作体験



京都教育大学附属京都小中学校 展示場ガイド風景

博物館実習

2024年6月10日（月）～6月12日（水）、9月3日（火）～9月5日（木）の6日間、立命館大学映像学部1名、京都橘大学歴史学部2名、信州大学人文学部1名の計4名を受け入れました。博物館の運営全般に関わる業務の説明、資料の整理や管理、展覧会の企画と展示について体験してもらいました。企画展示では、実習の前半で学んだことを活かし、ただ見せたい資料を展示するというのではなく空間として総合的に考え展示するという、多様な人々の立場や倫理観を尊重する展示内容であることを熟考し提案してくれました。総じて単位取得のための実習という域を超え、近現代史について、また平和創造について積極的に学びたいという思いが強く、実習時間外にも館長と対話をし、さらに見識を深めるため後日一般の来館者として訪れる学生もいました。

インターンシップ

2024年度秋学期、立命館大学国際関係学部から2名、立命館大学大学院映像研究科より1名のインターン生を受入れました。

国際関係学部2名についての主要な取組課題は、「太平洋戦争時代を生きた市民の証言」の英語への翻訳業務でした。翻訳業務に加え、海外からの来館者の展示場案内、展示場の一画で開催した国際法に関わるポスターセッション、研究者シンポジウムのための広報ポスター作製等に務めました。

映像研究科の1名は、平和創造にかかわる活動をしている人物の紹介動画を作成しました。完成後は常設展示場での映像展示なども想定しています。

国際関係学部（単位外）2名 2024年11月5日🔥～12月20日🌞
映像研究科（映像現場実習2単位）1名
2025年1月21日🔥～3月7日🌞

平和創造ワークショップ

新たな取り組みとして「平和創造ワークショップ」を開催しました。本企画は、NGOや市民運動など平和創造の現場で活躍するさまざまな講師を招聘し、現代の平和をめぐる諸課題や各々の取り組みについて議論・交流するものです。いずれも講師と当館学生スタッフとの対話の時間をもうけました。

①第1回「ガザの現在——私たちにできることは何か」

（2024年6月6日🌞）

参加者：39名

講 師：小林 麗子氏（日本国際ボランティアセンター・パレスチナ事業担当）

聞き手：君島 東彦（当館館長）

②第2回「ナジャ&メイ TALK & LIVE “モザンビークの今”」

（2024年9月12日🌞）

参加者：25名

講 師：榎本 恵氏（一般社団法人・モザンビークのいのちをつなぐ会）

Nadja氏（ミュージシャン、アソシエーションPVM代表）

聞き手：白戸 圭一氏（立命館大学国際関係学部教授）

ワークショップの参加者からの感想

「実際にパレスチナで支援されている団体で働かれている方のお話をお聞きして、ガザでの状況の深刻さや、NGOなどの支援団体の活動の多様さ、そして、そうした活動の大切さを感じました」（立命館大学生）、「私も世界で起きていることに興味はあったが理解できていないことが多くあった。しかし、この平和創造ワークショップに参加してクリアになった」（立命館大学生）



博物館基礎データ（2024年度）

図書・資料の受入

図書購入

78件 78冊

図書寄贈受入

寄贈図書	件数	冊数
団 体	66	118
個 人	0	0
合 計	66件	118冊

資料寄贈受入

寄贈資料	件数	点数
団 体	1	4
個 人	16	458
合 計	17件	462点

主な寄贈資料

日露戦争従軍日誌
元少年飛行兵（少飛会）関連雑誌
片桐ユズル発行 ミニコミ新聞「かわら版」
能楽名盤会製作レコード
「徴兵検査処」木製看板
西脇安関連資料（追加寄贈）

以上、多くの個人、機関の方々より図書、資料をご寄贈いただきました。ご厚意に対しまして紙面にて厚く御礼申し上げます。

除籍

除籍資料	件数	冊数
雑 誌	1	193
VHS	1	13
合 計	2件	206冊

利用状況

図書利用数

国際平和メディア資料室の館内閲覧のみ対応しています。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
冊 数	27	182	137	205	40	68	138	56	95	54	76	72	1150
内 Mのみ※	14	160	81	150	24	34	74	32	54	20	36	41	720

※本大学内で国際平和メディア資料室のみ所蔵している資料の利用数を表す

資料閲覧数

特別利用総数	閲覧	画像利用	貸出	当館企画展
45	19	24	2	内・1

2024年度活動記録

イベント 講演会 その他活動	4 / 8	国際セミナー「The Digitization of Civil Procedure in Singapore」
	4 / 20	国際ワークショップ「European Civil Procedural Law and Human Rights Guarantees」
	5 / 17～7 / 15	春季展覧会 押原譲写真展「ガザ」
	5 / 17	春季展覧会関連企画 「私と中東」 コーナーギャラリートーク
	6 / 4～6 / 7	職場体験：京都市立七条中学校
	6 / 6	平和創造ワークショップ「ガザの現在 —— 私たちにできることは何か」
	6 / 10～6 / 12 9 / 3～9 / 5	博物館実習
	6 / 11	特別講演会「ドイツと日本：21 世紀の課題を克服するための良きパートナー」
	6 / 15	春季展覧会関連企画 「私と中東」 コーナーギャラリートーク
	7 / 3	International Perspective on War Heritage, Memory and Museums in Japan
	7 / 6	春季展覧会関連企画 映画上映「被占領下パレスチナを訪ねて アル＝アクサ・インティファードはなぜ起きたのか」
	7 / 22～8 / 22	ギャラリー企画展「昭和初期の和服柄に宿る戦争」
	8 / 10	AFTER1945 ―被爆者の被爆体験以外の物語― （学生企画）
	8 / 6～8 / 11	茨木市非核平和展
	9 / 9～9 / 22	ギャラリー企画展「水田喜八の十の夢」
	9 / 12	平和創造ワークショップ「ナジャ&メイ TALK & LIVE “モザンビークの今”」
	9 / 19	第 31 回 メディア資料研究会 平和教育研究センター
	9 / 30～10 / 12	ギャラリー企画展「非戦の人 —— ジャネット・ランキン」
	10 / 1～12 / 31	オンライン展「第 5 回マンガ・パンデミック WEB 展 2024」
	10 / 3	中満泉国連事務次長講演会ブレ企画①
	10 / 18	中満泉国連事務次長講演会ブレ企画②
	10 / 21～11 / 2	ギャラリー企画展「記憶を紡ぐ私たち」
	11 / 1	中満泉国連事務次長講演会
	11 / 5～12 / 21	秋季特別展「阿波根昌鴻 ―写真と抵抗、そして島の人々」
	11 / 6～11 / 8	職場体験：立命館中学校・高等学校
	11 / 7～11 / 8	第 31 回日本平和博物館会議
	11 / 8	平和教育研究センター研究プロジェクト「スポーツと平和創造」
	11 / 8～12 / 14	立命館アジア太平洋大学、立命館大学 (APU-RU) 国際法共同セミナー ポスター発表展
	11 / 11～11 / 23	ギャラリー企画展「『古都の被爆者』―原爆投下候補地京都における京友会の発足から現在まで―」
	11 / 18～11 / 29	ギャラリー企画展「うみ そら はなが 伝えること」
	11 / 22	秋季展覧会 小原真史によるギャラリートーク
	11 / 23	秋季展覧会 トーク企画「阿波根写真と伊江島の人々」
	11 / 27	PEACE MUSEUM INTERNATIONAL LAW「国際法教育における平和ミュージアムの役割」
	11 / 30	秋季展覧会 トーク企画「伊江島、奪われた土地をめぐる経験から考える」
	12 / 2	国際セミナー「European Civil Procedural Law and Human Rights Guarantees」
	12 / 3	第 71 回不戦のつどい
	12 / 5～12 / 21	ギャラリー企画展「描かれた加害 ―坂本正直が向き合った戦場体験―」
	12 / 5	絵は読むもの？ 無言館共同館主・内田也哉子さんとの対話型鑑賞会
	12 / 6	ワークショップ「競技組織は平和や戦争にどう向きあっているか？」
	12 / 7	秋季展覧会 トーク&上映会「〈非暴力〉という生き方 ―阿波根昌鴻から何を学ぶか」
	1 / 10	ワークショップ「パラリンピックと共生社会：傷痍軍人のリハビリから 多様性の祭典へ」
	1 / 13～1 / 30	ギャラリー企画展「漫画で綴る～いろいろ家族のショートストーリー 『木陰の物語』～」
	1 / 13～1 / 30	ギャラリー企画展「物語と土地の力 ―東日本・家族応援プロジェクトとフクシマを巡る旅―」
	1 / 13	ワークショップ「平和共創ワークショップ～いま世代を超えて、ともに提案を創り上げよう！～」
	2 / 10～2 / 21	ギャラリー企画展「Well-Being な世界とは ―立命館宇治中学校・高等学校」
	2 / 11	講演企画「戦後芸術と反万博」
	2 / 21	講演企画「『聖断』の語りはどう作られたか―― 1950 年代を中心に」
	2 / 26～2 / 28	職場体験：京都教育大学付属京都小中学校
	2 / 28	講演企画「自然の命を解き放つ――インゴルド、スコット、グレーバーの人類学の思想と実践」
	3 / 6	第 32 回 メディア資料研究会「社会運動としての URC レコードと関西フォーク」
	3 / 11～3 / 24	ギャラリー企画展「美術部平和展 ―立命館中学校・高等学校―」
	3 / 24	メディア資料研究会・植民地資料研究会共催企画「広瀬貞三資料を読む」

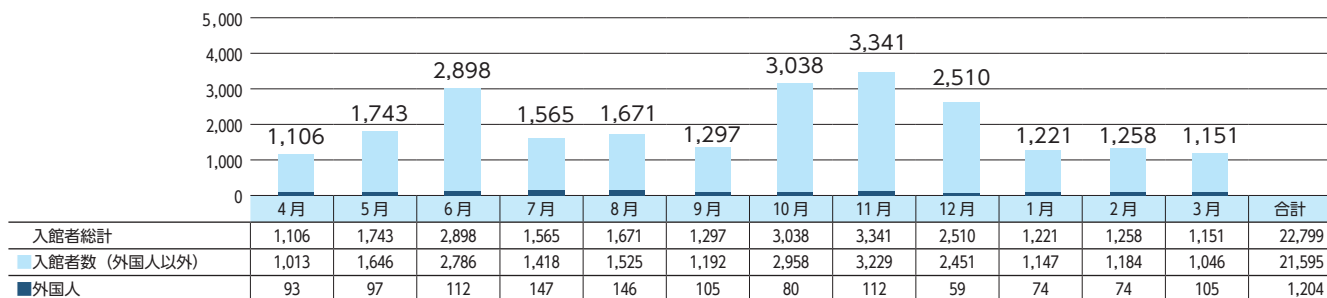
※会場記載のないものは、すべて立命館大学国際平和ミュージアムもしくはオンラインにて開催

2024年度入館者状況（2024年4月～2025年3月）

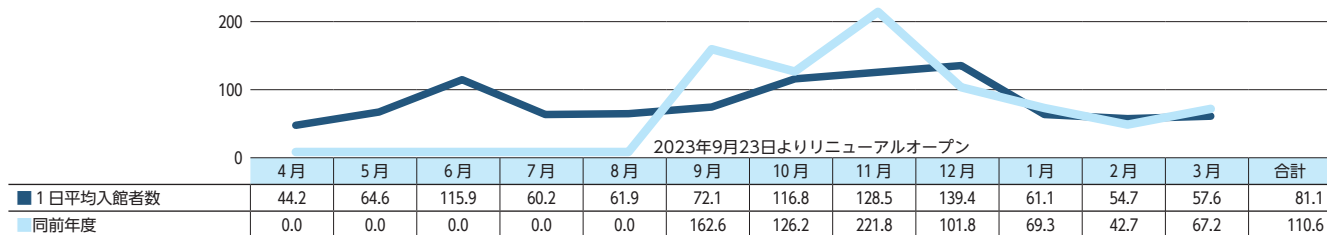
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開館日数	25	27	25	26	27	18	26	26	18	20	23	20	281
入館者数	1,106	1,743	2,898	1,565	1,671	1,297	3,038	3,341	2,510	1,221	1,258	1,151	22,799
累計（開館当初からの入館者数）	1,184,537												
1日平均来館数	44.2	64.6	115.9	60.2	61.9	72.1	116.8	128.5	139.4	61.1	54.7	57.6	81.1
（内数）外国人入館者数	93	97	112	147	146	105	80	112	59	74	74	105	1,204
（内数）外国人／入館者数	8.4%	5.6%	3.9%	9.4%	8.7%	8.1%	2.6%	3.4%	2.4%	6.1%	5.9%	9.1%	5.3%

*（内数）外国人／入館者数は、（内数）外国人入館者数を入館者数で割った比率。

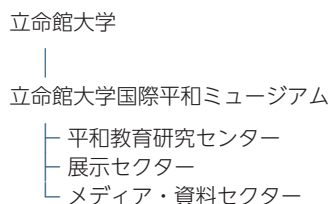
入館者数月別推移



1日平均入館者数月別推移



組織図



運営体制

（2025年度）

館長	君島 東彦（立命館大学 国際関係学部教授）
平和教育研究センター長	君島 東彦（立命館大学 国際関係学部教授）
副館長	勝村 誠（立命館大学 政策科学部教授）
展示セクター長	鳥山 純子（立命館大学 国際関係学部教授）
メディア・資料セクター長	藤田加代子（立命館大学 グローバル教養学部教授）

遊心雑記

長崎で体験したドッキリ

安齋 育郎（立命館大学国際平和ミュージアム名誉館長）

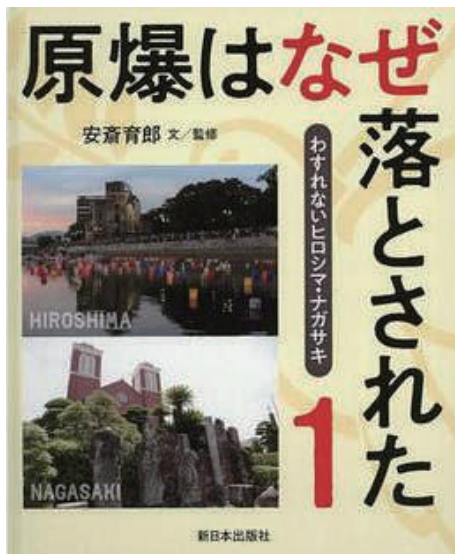
最近、『わすれないヒロシマ・ナガサキ』（上下2巻、新日本出版社）という本を出しました。小学校高学年～中学生を主な対象にした学校図書館向けの学習書です。

2025年はアルバート・アインシュタインが核兵器の原理である「相対性理論」を発見して120年、それが原爆として開発・実験・使用されて80年、そして、原爆の原理を発見したアインシュタインが哲学者のバートランド・ラッセルとともに「ラッセル＝アインシュタイン宣言」を出して核兵器廃絶を訴えて70年目に当たります。昨年末、私も推薦していた日本原水爆被害者団体協議会（日本被団協）がノーベル平和賞を受賞し、わがことのように喜んだその勢いで、この本を執筆しました。

本の中で紹介した1枚の写真があります。

私は評論家の故・加藤周一さん（国際平和ミュージアム初代館長）とともに長崎原爆資料館の総合監修作業を担当したのですが、長崎に通っていたある日、長崎空港から資料館に向かう途中、長崎市上空にキノコ雲を見たのです。ドッキリして、反射的に写真を撮りました。

一種の職業病とでもいうべきでしょうか。核兵器の問題がいつも頭の中にある私が、こともあろうに原爆被災地長崎に向かうそのタイミングで、長崎上空にキノコ雲を見たのです。心臓がドキドキしました。この時、束の間に長崎上空に現れたこの雲を見てドッキリしたのは、世界中で私一人だったかもしれません。その瞬間のドッキリを忘れられず、最近著に紹介した次第です。



学校図書館用の学習書（新日本出版社、2025年）



長崎市上空に現れた「キノコ雲」（撮影：安齋育郎）

立命館大学国際平和ミュージアムだより



立命館大学国際平和ミュージアム
Kyoto Museum for World Peace, Ritsumeikan University

第33巻 第1号（通巻96号）2025年7月31日発行

編集・発行 立命館大学国際平和ミュージアム

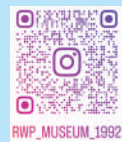
〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1

TEL : 075-465-8151 / FAX : 075-465-7899

<https://rwp-museum.jp>



HP



Instagram



今後、特別展のご案内、ミュージアムだより等、国際平和ミュージアムより送付を辞退される場合、また、送付先の住所変更等ございましたら、氏名・団体名、送付先住所、電話番号、FAX番号をご記入の上、FAXにて国際平和ミュージアム（075-465-7899）へ送信ください。